

September

2 6 ,
2 0 0 2

対談 インターネットの彼方に 第5回

【Guest】

宇川直宏

U k a w a N a o h i r o

×

小崎哲哉

O z a k i T e t s u y a

構成：長野弘子 photo: Kaizuka Jun-ichi

ウェブ上の美術館「Internet Museum of Art」に、自称「メディア・レイビスト」の宇川直宏の作品展示が加わった。ビデオクリップ、イラストなど、最終的には10000点を超える宇川作品の巨大なアーカイブになるという。すごいのは、サイトが未完成のまま「見切り発車」的に始まり、今後も更新され続けるということ。皮肉ではなく、この「永遠の進行形」こそが、もっともインターネット的な表現方法ではないだろうか。

- - 小崎哲哉

“集めても整理しない”という作品性

小崎：雑誌『ミスター・ハイファッション』に掲載された宇川くんの部屋の写真、見ましたよ。クリエイターの部屋を紹介するという企画だったんだけど、あそこまで散らかっている部屋は宇川くんだけだった(笑)。使っているマックのデスクトップでもファイルがものすごく散らかっていましたが、僕はこれを見て「収集と拡散」というキーワードを思いつくんです。この散らかりようは「収集と拡散」という作品性を表しているんじゃないか。ひたすらモノを集めるけど、整理はしないでバラバラにしてしまうという。

宇川：そう、収集して分裂、融合を繰り返して、部屋もデスクトップも、頭のなかも散らかり過ぎて、本人もたまにクラッシュするんです(笑)。ひとつのテイストを集めることがぜんぜんできなくて、収集されたものを見ても限定されたイメージはないので、他者から見たら何に引っかかっているのかぜんぜんわからないと思う。

小崎：昔からそうだったのかもしれませんがね。宇川くんは香川県の出身で、14歳の頃からハードコアパンクを聴きまくっていた。当時の出来事で、伝説のバンド、ジャックスの「からっぽの世界」の話もそうですよね。

宇川：そう、中学生のときパンク雑誌『DOLL』でハードコアのレアな音源を交換できたんだよね。そこで、東北地方の高校生がジャックスの「からっぽの世界」を持っているということがわかった。手紙を出したら、三菱銀行強盗殺人事件の犯人、梅川昭美の写真と交換したいという。そこで四

俺はメディアとコミュニケーションしつつ、自我を軽く露呈するという表現方法だから。

UKAWA NAOHIRO × OZAKI TETSUYA



国新聞に行って梅川の写真をコピーし彼に送り、そのテープをゲットした。その後、テープのコピーを友達にあげたりしてたんだけど、高校生になって、違う中学から来た奴と話していたら、そのテープを持ってたんだよね。どこからゲットしたのか元を辿っていったら、何と10数人を通過して俺から始まっていた。それで、だいたい記録媒体は7か月で12~13人に広まるということがわかったんだよね。香川県高松市の特定の音楽コミュニティーをメディアと考えると、どのくらいの期間でどのくらいの人に広がるかという感覚が掴めた。

小崎：宇川くんは、四国におけるコミュニティーポータルサイトだったのかも。

宇川：誰かがクラスのなかで重要なメディアとして存在していれば、こういうモノは簡単に広まっちゃうんだよね。特定のアク

セスポイントにソースを置くと広まっていくように。

小崎：収集、配付の仕組みはインターネットそのものですね。宇川くんの作品作りにも、共通している点がある。

宇川：そうかもしれない。俺はメディアとコミュニケーションしつつ、自我を軽く露呈するという表現方法だから。活動領域は増殖しているかもしれないけど、下手したら、自分のなかから出てくるクリエイティビティーは幼稚園や小学校の頃からまるっきり変わってないような気がする。

瞬間の映像と全体のストーリーの繋がり

小崎：よく、「宇川 = 聴覚的」と言われますよね。映像だけじゃなくて、しゃべり方とか文章も聴覚的ですよ。宇川くんはまず、耳の人だと思います。

宇川：そういえば、DJ TASAKA(ドイ
ツ・ドルトムンドで行われたヨーロッパ最大
の屋内レイヴ“MAYDAY”に出演した実
力派DJ)のミュージックビデオでは、人間
の筋肉の収縮をスピーカーのコーン紙の振
動に見立てて何か表現しようと思ったんで
すよ。それで、黒人のボディビルダーの
筋肉をドラムのキックの音に合わせて動か
した。全体のストーリーは、耳のなかに入
るとお花畑があって、そこに女の子がいて
サウンドシステムがあって、蚊がいっぱい
出て来て、とわけわかんない展開をする。
一見バラノイアっぽく見えるけど、実はそ
うじゃなくて、人間の思考回路はこういう
仕組みだと思っているんです。人間は精神
と身体を媒介として思考する存在だから、
蚊が一匹いることによって、痒くて痒くて
どうしようもなくなったら、すべてを忘れち
ゃう。最初に出てくる煙は、実は蚊取り線
香なんです。身体の中が痒かった。退
治しようもないから、八虫類にトランスフ
ォームして追い払うんだけど、汗の匂いに集
まってきた蚊たちは、実はその間に煙に犯
されていて死んでしまうという話なんです。


小崎：個々の映像だけではなく、全体のス
トーリーが完璧にあるんですね。

宇川：自分たちだってそうじゃありませ
ん？ お母さんが亡くなって帰郷するた
めに乗った新幹線の中で、巨乳のお姉ちゃ
んが通り過ぎたら、ついつい視線を奪わ
れちゃう自分がいるでしょ。それまで脳に
漂っているイメージはお母さんで充満して
いたのに、それが一瞬にして消える。人間
の思考回路とはそんな感じじゃないのか
な、というのを具体化してみたかったん
です。

片方が皇室で、もう片方がサブちゃん

小崎：それもインターネット的な感覚に通
ずるような気がする。ある目的を持ってブ
ラウジングしているのに、ふと目に付いた
リンクをクリックしたら、まったく違うもの
が出てきてしまう。それがおもしろければ、
最初の目的を忘れて、そっちの道筋に入っ
ていってしまう。そういう感じに近くな
い？ こういう思考回路のあり方もイン
ターネット的、というか、ネット的な思考回路

の原点が現実にあるんだよね。ネットを使
って、作品の素材を探してくることはあり
ますか。

宇川：あるけど、それよりテキストのアーカ
イブとして利用するほうが多い。いま、イ
ンターネットは過渡期だと思うんですよ。ま
だ光ファイバー使ってフルスクリーンで映
像を流せるまでにはいたっていない。でも、
テキストと写真情報のアーカイブとして
は使えると思っています。たとえば、いま
ハマっているのは宮内庁  のホームペ
ージ。皇室アルバムは、愛子さまのプライ
ベートな写真があるし、いつもチェックして
いる。すごいレアだよ。ここで彼女の成長
過程を、国民全員が見ることができるん
だけど、これってすごいことじゃない。それ
に、このサイトには「皇室用語集」があ
って、これがまたヤバイ。

小崎：「お出ましに関する用語……行幸、
還幸、行幸啓、還幸啓、行啓、還啓、お成
り、ご帰還」……凄いよね。

宇川：カッコいいでしょ。それに、ご結婚に
関する用語では、「結婚の儀」は知っている
けど、「三箇夜餅の儀」とかは知らない。
だから、よく年輩の方が「渋谷でブラブラ
している女の子の言葉はなつとらん」と言
っているけど、それなら皇室用語は日本語
かと問い詰めたい。ヒップホップを始めた
ブロンクスの黒人たちが独自の言葉を作り
出したように、特定のコミュニティーで使わ
れている言葉という意味で、皇室用語は
スラングに近いんじゃないかと。だから、
これでラップしたらいいかもね。

小崎：皇室用語ラップ、いいよね、「～の儀」
「～の礼」ってのが多いから韻も踏めるし。

宇川：12インチでリリースすれば、列島を



インターネットには個々の顔イコール欲求が 無数に存在している。



UKAWA NAOHIRO × OZAKI TETSUYA



レペゼン(代表)しているロイヤル・ヒップ
ホップとして成立するかも……。最近、列
島自体がブロンクス化していると思うんだ
けど、北島三郎のホームページ [Jump01](#) を見
るとより明確に表れていますよね。

小崎: サブちゃんは、芸能界の天皇。

宇川: ヤバいのが「サブちゃん物語」のコ
ーナーで、有珠山噴火で大変な最中開か
れたチャリティーコンサートの写真。この
写真はまさにレイブの風景だよ。「レイン
ボー2000」のアンダーワールドの写真だっ
て言ってもわからないよ。

小崎: ピーター・ガブリエル率いるワール
ド音楽祭「WOMAD」でも、日本の代表音
楽としてもっとも注目されたのが都はるみ
とサブちゃんだった。

宇川: キング・オブ・ロイヤル・ヒップホップ
だね。「サブちゃんと歌仲間」というテレビ
番組では、いきなり日本地図がドーンと出
てきて、山形県が点滅すると、その週は山
形名産のキノコを視聴者にプレゼントする
んです。次の週は熱海の金目鯛の開きと
か、サブちゃんの一言で日本中の物産が集
まってくる。

小崎: 宮内庁の御用達の感覚に近いよね。
宮廷への貢ぎ物みたいな。片方が皇室で、
もう片方がサブちゃん。

宇川: あと凄いのが「初期ラジカセの研究
室」 [Jump02](#) というサイト。ほとんどがステレ
オ以前の、短波が入る最初期のモノラル・
ラジカセだけを集めていて、いろんなメー
カーから出たラジカセがぜんぶ掲載され
ている。それに、『スチューワーズ物語』な
どのテレビドラマに一瞬でもラジカセが映
ったら、そのモデルを特定しているんです
よ。さらに、『すすめ!パイレーツ』や『ブ
ラックジャック』なんかの漫画でも型番を見
つけちゃう。ヤバいでしょ。

小崎: マニアックなんてものじゃなくて、やり
過ぎだよ。でもこうして見ると、個人の
のページにかなうものはないな。

インターネットの彼方には無数の顔がある

宇川: 本当に狂ってるよ。「殺人事件
murder case」 [Jump03](#) という個人のサイト
もそうだけど、市場に出ているありとあら
ゆる文献をまとめて、実際の殺人事件を説



明している。それも、犯罪にいたるまでの
経過を時間軸に沿って並べているから、ど
んなルポよりもいちばん充実してる。完全
にサンプリングとミックスの世界。一件ずつ
読んでいくと、めちゃくちゃドラマティック
で衝撃的ですよ。

小崎: 情報のコラージュに徹しているな
あ。こういう欲求は以前からあったけど、
テクノロジーがそれに追いついて来た感じ。
それこそ、横尾忠則が10年くらい前に
マックで画像処理ソフトの「フォトショップ」
を使い出した話に似てるでしょ。横尾さん
はレイヤー機能で実現できることを自分の
手で以前からやっていた。だから、すんな
りマックに移行できたといえますね。

宇川: みんな時間があつたら欲求を具体化
する方向にどんどん向かっている。「インタ

ーネットの彼方に何が存在しているか」に
対する結論は、本当は自分の顔、つまり個
人的な欲求しか存在してないような気がし
ますね。

小崎: 確かにインターネットには個々の顔
イコール欲求が無数に存在している。

宇川: そう、亡くなった人の遺品を家族が
整理して「ああ、こんなものも集めてたん
だ」と気づくように、ウェブブラウザのブ
ックマークを開くと、その人の人格や思考
がよくわかるんです。

[Jump01](#) www.kunaicho.go.jp

[Jump02](#) www.kitajima-music.co.jp

[Jump03](#) www.geocities.co.jp/Milano/1123/

[Jump04](#) [www.alpha-net.ne.jp/users2/
knight9/j.htm](http://www.alpha-net.ne.jp/users2/knight9/j.htm)

イベントを開催しています

『インターネットマガジン』では定期的にインターネットに関連した
トークショーを開催しています。ホストは小崎哲哉氏。ゲストには
毎回各界からその分野のトップランナーを招いて、トークを繰り
広げます。最新情報は以下のURLにてゲットしてください!

internet.impress.co.jp/realtokyo/

Special Thanks to:

森ビル株式会社 Roppongi Hills Information Center /
THINK ZONE
株式会社イデー Library Cafe te





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp